ー次元鎖型Cu錯体による混合ガスフローからの選択的CO2吸脱着と 誘電応答

¹北大電子研,²東北大多元研,³北大院地球環境 〇高橋仁徳¹,星野哲久²,野呂真一郎³,芥川智行²,中村貴義¹

Selective CO₂ sorption and dielectric responses of one-dimensional copper coordination polymer

•Kiyonori Takahashi¹, Norihisa Hoshino², Shin-ichiro Noro³, Tomoyuki Akutagawa², Takayoshi Nakamura¹

¹ Research Institute for Electronic Science, Hokkaido University, Japan

² Institute of Multidisciplinary Research for Advanced Materials, Tohoku University, Japan

³ Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, Japan

[Abstract]

Gate-opening/closing gas sorption behavior has been attracting much attention in coordination polymers (CPs), where specific gas pressure triggers structural phase transition and changes the gas sorption amount drastically. Herein, the gate-opening/closing point was detected by dielectric change in copper coordination polymer of $\{[Cu_2(2-TPA)_4(pz)] \bullet [Cu_2(2-TPA)_4(CH_3CN)_2] \bullet 2CH_3CN\}_n$ (1), where 2-TPA and pz are 2-thiophenecarboxylate and pyrazine, respectively. Crystal structure of 1 was constructed by the pyrazine-bridged paddle-wheel unit of $[Cu_2(2-TPA)_4]$, forming one-dimensional chain. Between the chains, discrete [Cu₂(2-TPA)₄(CH₃CN)₂] complex and two CH₃CN molecules were observed. The gas sorption isotherms for CO₂ and N₂ showed the selective sorption behavior only for CO₂ with gate-opening/closing behavior. Effective change in the dielectric constants upon CO₂ sorption was observed under the mixed CO₂/N₂ flow. The enthalpy of CO₂ gas sorption from dielectric measurements was consistent with that from DSC.

【序】

配位高分子 (CPs) は、金属イオンが有機配位子によって連結された金属錯体であり、 一次元鎖型、二次元シート型、三次元格子型など、多様な構造体を与える。CPs の空 隙には気体が吸脱着可能であり、気体の貯蔵・分離や触媒への応用など、様々な観点 から研究が進展している。また、活性炭やゼオライトなど、従来の多孔体と異なる CPs の顕著な特性として、気体吸脱着の過程で、特定の圧力下において構造が転移す ることで空孔が伸縮し、吸脱着量が劇的に変化するゲート型吸着挙動があげられる。 筆者らは一次元鎖型 CPs である [Cu₂(R-benzoate)₄(pz)]_n (R = ハロゲン置換基、pz = pyrazine) が、CO₂ に対しゲート型吸脱着を示し、構造変化に伴う誘電応答が観測さ れることを報告した。^[1] Ru を金属イオンとする類似の一次元鎖型 CPs においても、 各種気体吸脱着に伴う誘電応答が報告されている。^[2]本研究では、選択的なガス吸着 に伴うゲート吸脱着を利用して、混合ガスフロー下での CO₂分圧を誘電率の変化によ り検出する系の構築を目指した。

【結果・考察】

 ${[Cu_2(2-TPA)_4(pz)] \cdot [Cu_2(2-TPA)_4(CH_3CN)_2] \cdot 2CH_3CN}_n$ 結晶(1) (2-TPA = 2-thiophenecarboxylate)は、 [Cu(acetate)_2] · H_2O と 2-thiophenecarboxylic acid の CH_3CN 溶液に pz を拡散する事で得た。X 線結晶構造解析より、結晶 1 は paddle-wheel 型

Cu 二核ユニット[Cu₂(2-TPA)₄] がpz によって架橋 された一次元鎖構造と、ディスクリートな銅二核 構造[Cu₂(2-TPA)₄(CH₃CN)₂]および組成あたり2分 子の CH₃CN によって構成されていた(Fig. 1)。

結晶 1 を真空下、383 K で保持することで CH₃CNを脱離させた結晶 1'を得て、そのN₂(77 K) および CO₂ (250, 260, 270 K) の吸脱着等温線 の測定を行った (Fig. 2)。N₂ 吸着が観測されない のに対して、CO₂吸脱着はいずれの温度において も確認された。また CO₂ 吸脱着等温線において、 特定の CO₂ 分圧において吸着量 (n_{ads})が急激に 増大し、脱着過程でヒステリシスが見られるゲー ト吸着メカニズムの存在が示唆された。温度上昇 に伴うゲート圧の上昇が見られた事から、ゲート 吸脱着に伴う構造変化を熱測定によって評価し た。N₂ および CO₂ ガスフロー下での示差走査熱 量測定 (DSC) を行ったところ、CO₂ フロー下で のみ、冷却および加熱過程に、それぞれ 280、290 K にピークを有する熱異常が出現した。



Fig. 1. Crystal structure of **1** viewed along the *a* axis. One-dimensional chains were represented by green colour.

CO₂ 分圧を変えた CO₂/N₂ 混合ガスをフローさせながら誘電率 (\mathcal{E}) の温度依存性 を1Kmin⁻¹ 冷却速度で320Kから測定した (Fig. 3)。N₂ フロー下では冷却に伴って、 \mathcal{E} は単調に増加した。一方、CO₂ 存在下では、 \mathcal{E} の急激な減少が見られ、その on-set 温度は、CO₂ 分圧が 101.3、75.90、50.65、25.33 kPa のとき、それぞれ 273、268、262、251 K であった。CO₂ 分圧 (P_{CO2}) の減少に伴って \mathcal{E} が低下する温度も減少することから、 誘電率変化はゲートオープンに伴う構造変化に由来すると考えられる。そこで、DSC から見積もられる吸着と構造相転移によるエンタルピー変化 (ΔH) と、誘電率変化か ら見積もられる ΔH の比較を行った。DSC 測定における熱異常から、 ΔH は 41.48 kJ mol⁻¹ と見積もられた。一方、CO₂ の吸脱着等温線および混合ガスフロー下における 誘電率変化から、Clausius-Clapeyron の式を用いて ΔH を求めたところ、40.9 および 35.8 kJ mol⁻¹ と算出され、熱測定の結果と一致した。以上より、混合ガスフロー下で の CO₂のゲート吸脱着が、誘電応答として検出可能であることが明らかになった。



Fig. 2. CO₂ adsorption-desorption isotherms at 250 (black), 260 (red), and 270 K (blue). Filled and open symbols correspond to adsorption and desorption process, respectively.



Fig. 3. Temperature-dependent ε' under CO₂/N₂ mixed flow, normalized by the each value of ε' at 320 K (ε'_{320K}).

【参考文献】[1] K. Takahashi *et al. Dalton Trans.*, **2014**, *43*, 9081–9089. [2] W. Kosaka *et al. J. Am. Chem. Soc.*, **2014**, *136*, 12304–12313.